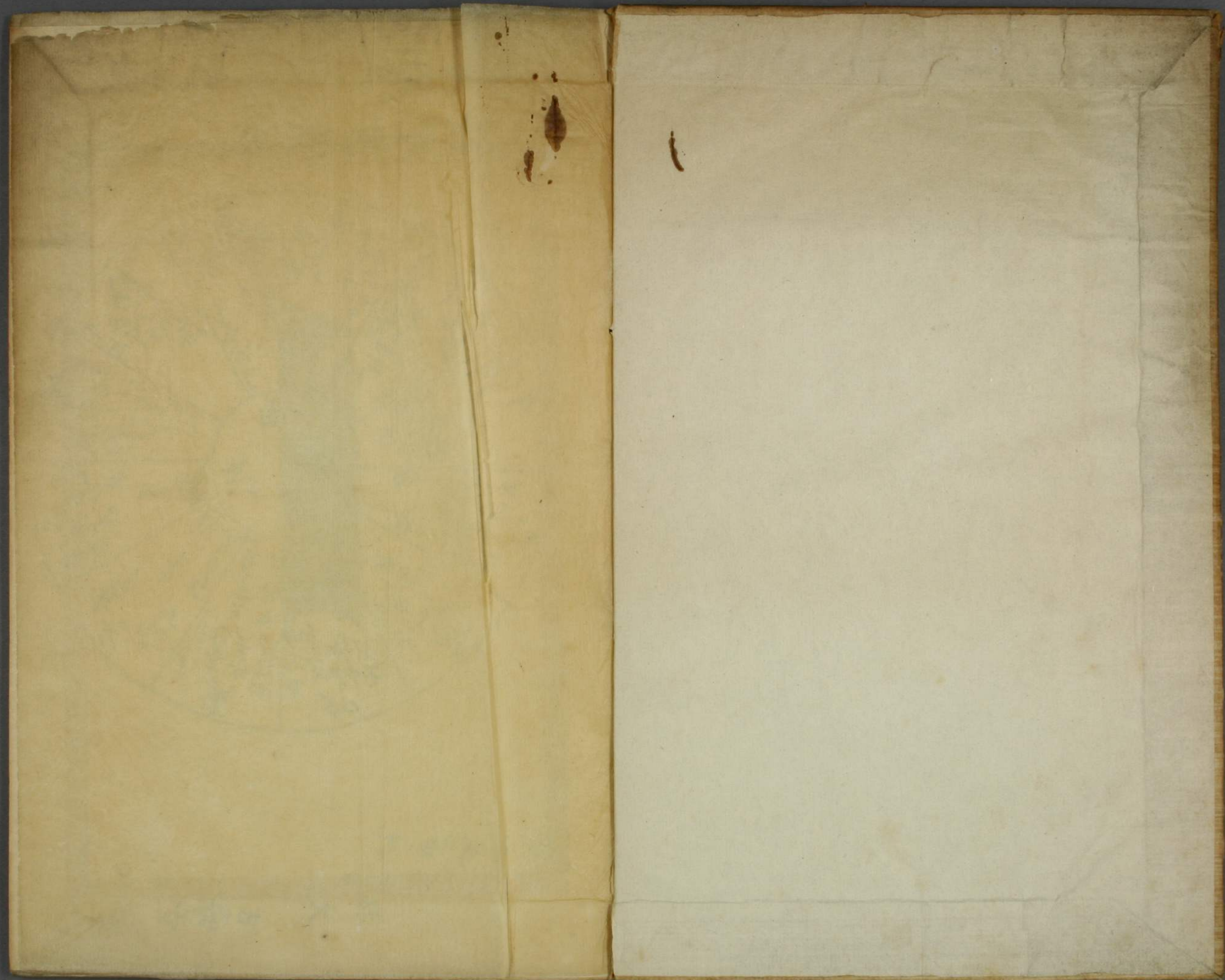
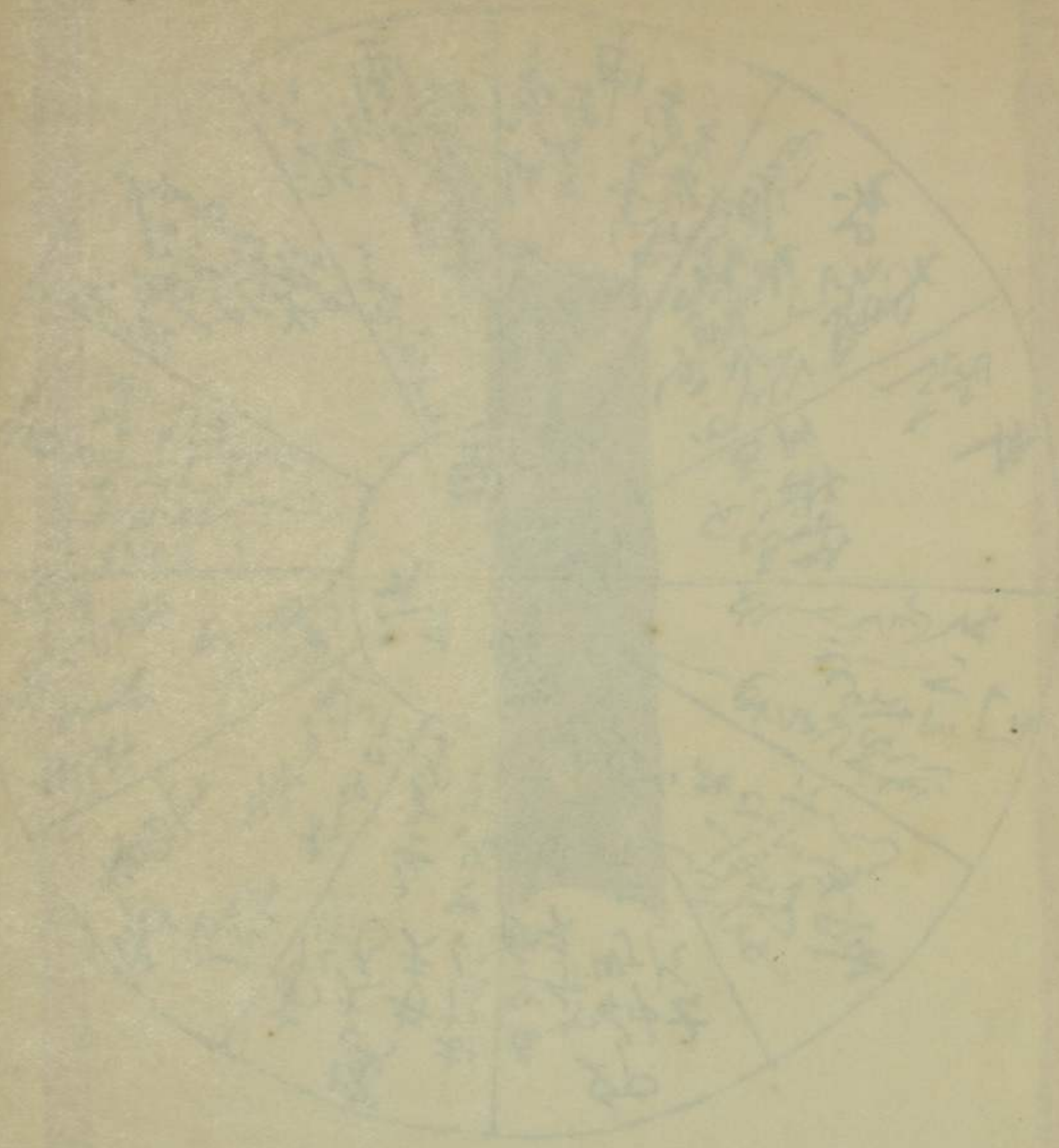


76
3072
1

圖協所考
上





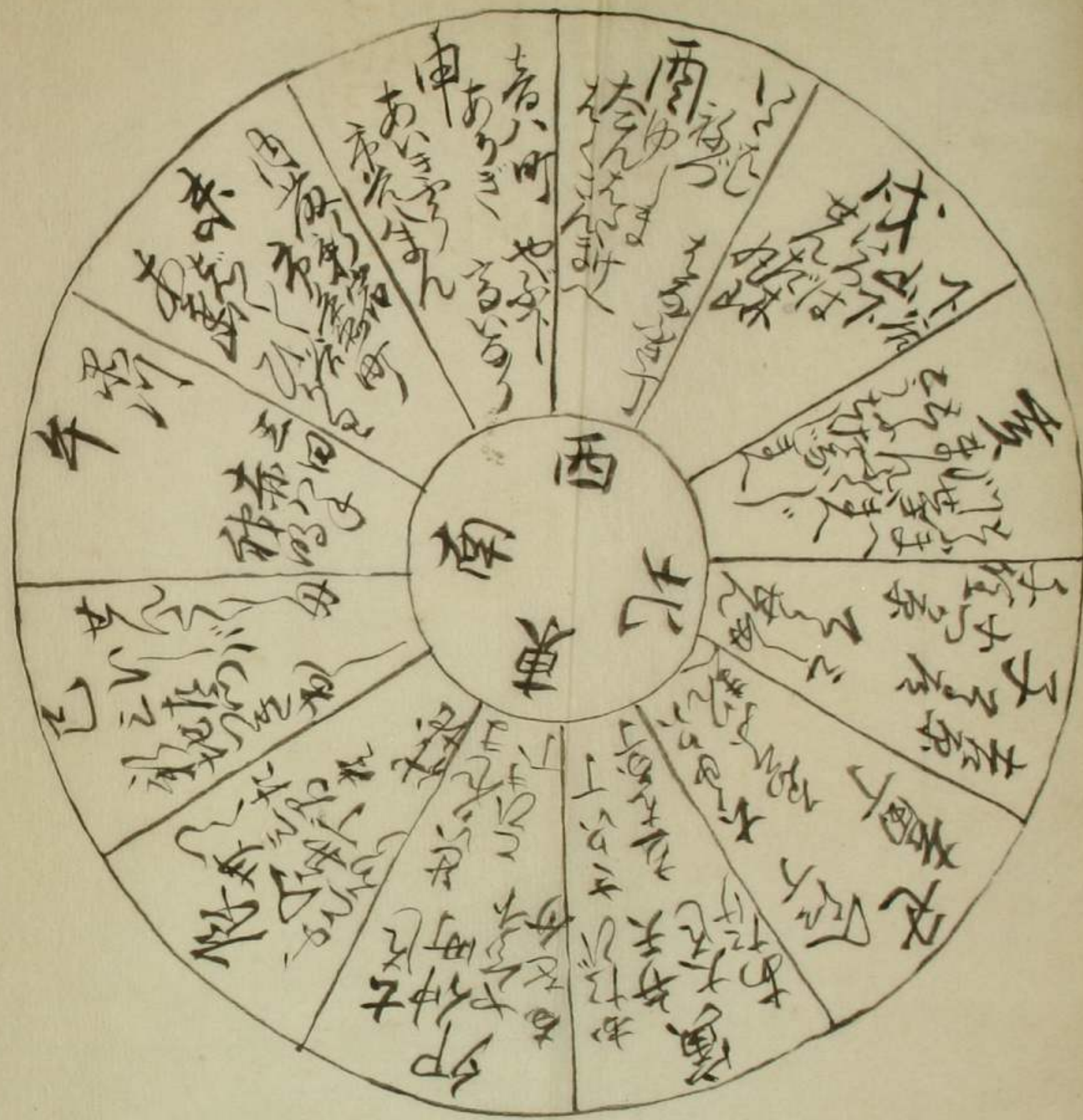
Handwritten Chinese text at the bottom of the left page, including the characters "大正" (Taisho) and "加" (Ka).

The right page is mostly blank, showing signs of aging and some faint, illegible markings. There are some dark spots and a vertical crease near the center of the page.

策國要

策國要

方角里北



此申五永安

吉月八

元

堂壽吉

策國要



謗不昨日、今日此昔、潤を瀨と稱する、後を乃
中り不考り、百鬼子川といひ、以東都市御
の隅に、不女仙聚會の歌、久禮園、何本、欽樂、遊
嬉の地、丹、多、を、銀、り、も、拙、筆、平、い、ふ、聲、も、下、り、
不女仙の娑婆、ハ、本、南、北、り、わ、り、終、を、世、界、子、依、
言、是、多、り、世、國、く、を、出、貨、米、も、の、何、り、五、波、字、
國、貞、婦、と、の、不、先、生、画、工、の、妙、子、と、云、を、他、此、妓、
或、の、驛、路、乃、倡、妓、乃、見、勢、の、粉、彩、不、い、る、ま、ま、く、
探、筆、精、心、波、あ、め、り、志、字、り、既、り、上、持、せ、
を、予、不、不、け、不、不、を、渡、洪、大、人、不、編、圖、不、不、先、

生筆、波、掃、り、く、控、寫、を、多、り、柳、を、遠、を、凡、を、
二、り、破、り、如、く、と、そ、れ、く、の、遊、仙、廊、の、繪、巻、を、



加、後、の、古、入、せ、と、の、字、遊、さ、む、の、今、
不、遊、里、も、一、愛、り、今、此、世、を、か、更、り、
跡、方、と、妙、若、移、多、程、社、名、の、人、其、筆、記、り、
多、名、所、舊、跡、を、失、と、さ、る、其、人、此、切、と、い、ふ、
此、書、不、更、と、異、あ、れ、と、每、そ、頭、の、時、勢、を、
果、り、の、之、思、花、り、何、れ、と、娑、の、あ、り、ハ、い、ま、
服、の、何、り、具、多、り、ひ、り、且、其、今、野、の、
繪、巻、も、と、流、り、沿、草、は、さ、あ、を、紙、不、如、

癖有る人を後くの代り 何事か一
席談話の終りも ありきと一徳の冊
子ありきなり 行ふ思

古語

あつていふや 何思ひらん

昔のや乃らうきを

いふまゝなり 今もあつたり

安政四丁巳五月の

ニウアツリ

豊亭芥子戯記

東都廓外艶郷分野之圖 并妓時勢粧模寫

深川 大新地 旭樓上圖 小新地 新石場 古石場

表槽 ヤケラ 下ト云 裏矢倉 横ヤケラ 凡云 裾紐 吉本樓 報條

仲所 當所起立事 辰巳糴豆 土橋 盛衰之語

佃新地 海貳アヒル又向土橋ト云 并局 長屋

網步場 お多バ 常磐町

本所 辨天 松井所

下之卷

本所 入江所 大見世并五ヶ處 弓見勢

岡場所惣目録



岡場所惣目録

芝三田新 三角 大見世并乃長屋
 根津 大見世乃長屋 音羽 大見世乃長屋
 谷中 大見世 然圖 赤坂 田所大見世乃圖
 堂前 浅草局 市兵衛所 麻布 藪下 麻布
 敷橋 四ツ谷 ぢく谷 市ヶ谷
 品川 驛中總圖 内藤新宿 同上
 千住 小塚原 両取畧圖 板橋 同上

新版

巳共年代記

一牧摺

東都作者

猿猴月成著

深川吉名場七國樓主人

巽八景目錄

定日

永代の帰帆
 八幡の晚鐘
 仲町の夜雨
 榎下の夕照
 石場の暮雪
 新地の晴嵐
 佃町の落雁
 洲崎の秋月

正月 松の内
 三月 山内内
 六月 富士朝日
 七月 草市十日
 八月 祭礼十日
 十二月 市十日

深川に限り渡世

水道の舟が子
 新すゝとさふ女宿
 本場の角のり
 女のかるま
 送る船の佃さき
 貝その沙むき
 三月より拾神
 昔さ限りの料理
 ぬり家の大茶屋
 ぶね女主人の大茶屋
 貝うり 洞屋
 仲町歌あしの茶屋
 七友三妻馬編木凡老補寫



新地

惣領也 昼夜ニツ切朝真ニテ宵ヨリ朝マテ
金銭朱子ヲ執云志我朱はく地客ヲ撰之細帯
ノ人不上女帝子俗シタラクニ而尤夜具圍
蒲ケンアニテ客ヲ割床ニテセキ一モガクシ廊下ハ各
三尺四尺中ナリ表階子ハ有リ女帝ハ各ニ手繁ハヨシ此
地ハ表カニ會月ヨリノ紙出スノ矢ニ如シ夫故客ヲヨビ
大ニ其頂山内ノ客詰店差尻ヲ下切櫃ニ場取ナリ
天保十三八月七日五拂ニ成支ヨリ丸石ハ雨川ハ行増本
トナリお孫屋美奈左所一丁見新新本撰トナリ

場取新地 山交

同乃ん世

寛政 寛政 各々切客ハ各々カヨリ
海客ハ朱子下ハ有リ 諸所ヨリ限多切ニして丸石ハ雨川有地也
世更若者ナリナリ 常ニ代更ニシテ丸石ハ雨川有地也

津川大新地

對旭樓 始五明様ト云 再改舟通様ト云
尚亦南表の廣居ニ横ニよりの強め流石の大船ハ船出舟の志帆

片帆船房の舟急の舟押送りの舟水三取花舟等ノ船より運送の

船船何船也馬船約船何船船の扁船を舟浴船商人船

取万程万船江船川口の娘ハ天候ニ當海頂と何カ一任是お控甲

任の山ノ一を船子つゝあしをを系學紙書一カ一宮一廊仙家の

佳解と云いらん 本本永代橋八景元孫十二年己卯養山初書

士峯積石

永代代をこり積石の白雲の不二を根も石也を移す也

大橋夕照

おとけり山をくくくお庭よ夕日也くくまのあま

東叡晴嵐

雲霞もあやしくもさしぬ鏡雪の山は清く静日たすくやきにさる

増上晚鐘

桂りて世念もはらねる人としらにちりゆく入木の鐘

佃田落鳥

さねよりいゆゆく原の片とちりや佃り落るあきよりさる

深浦歸帆

ほつとをぬくおとせし舟もおとせぬ舟もゆきもよそをそくれのみ

洲崎秋月

足る人のいよしの秋夜もなすくまに思ふを北風の吹乃舟

品川夜雨

大新地

品川越中島築出新地ナリ

此町分 昼取 四切 銀十二匁

呼出 昼夜 朝直 共銀六十匁

女藝者 二朱 迎

此町分 昼夜 四切 金二朱

伏玉 一昼取 朝直 共二分朱

女藝者 右 同之

此町を佃新地同様の風俗ありしり高野町を一度
妓の格に遊稼の遊り仲町と同様にあり

品川越中島築出新地ナリ

小新地

惣伏玉

新石場

惣領

昼夜 四切金三朱
一層取 廻直共二分三朱

女儀云々 二朱近

千ヨシノ間の遊びあはれを羨む松原の

隙をわささくせり島あり

古石場

惣領

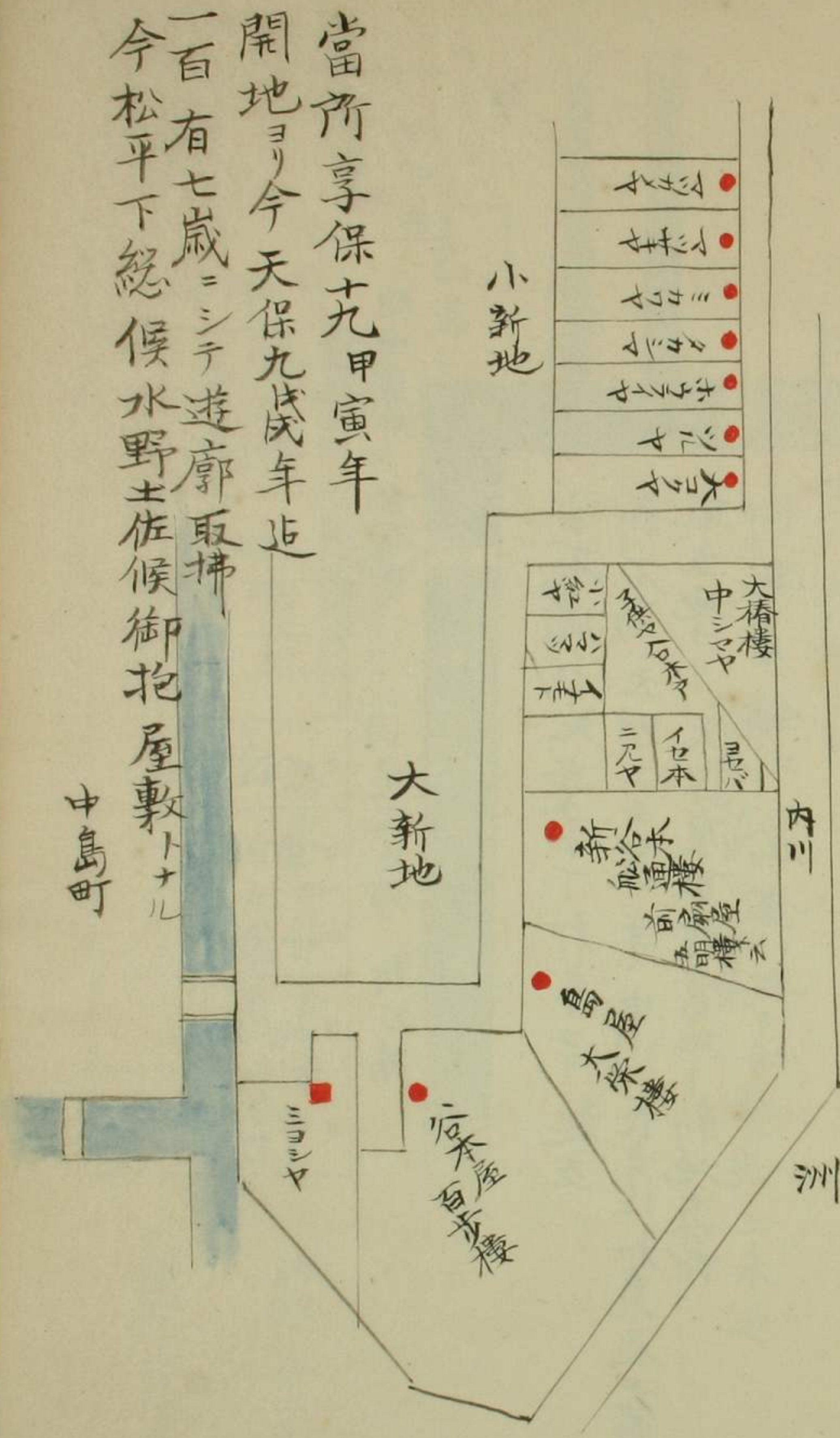
右内

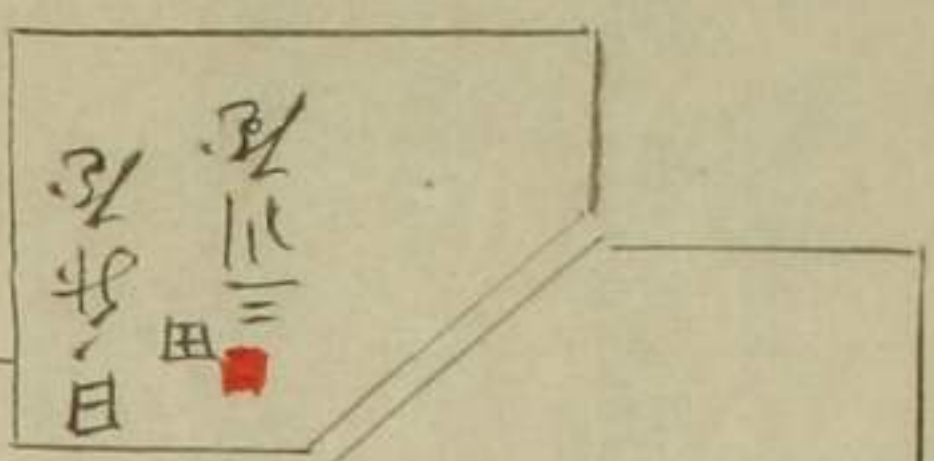
屋外 百人一首の内 柿本丸

ふゆわかれく出まぎたや不る客ふれ

あさく 新をひとく かしらん

格衣の御返をかはる所川り海へ定ぬ思はねこれ哉





豊倉

菊屋

大徳屋

伊勢屋

越中島町 古石場

上総屋

坂田屋

小松屋

龜屋

六軒屋

同定後屋鋪 新石場

古石場ハ延享四丁卯年ヨリ起立
 新石場ハ天明二壬寅年中川長多治和泉屋文藏
 取立地ナリ天保度取掛當地ト新地ト所
 御抱屋鋪ト沿革セリ

深川槽下

表槽ト云

呼出

昼取 四切 金二朱
 一昼取 朝車 五二分二朱

女藝者 二朱迎

横槽

惣伏玉

四六

色里名所鑑 一印朱きの小洛大納言

表裏不切 小洛大納言

裾継

惣伏玉

昼夜

四切 金二朱
 女藝者 二朱迎

此印分ナリ

同

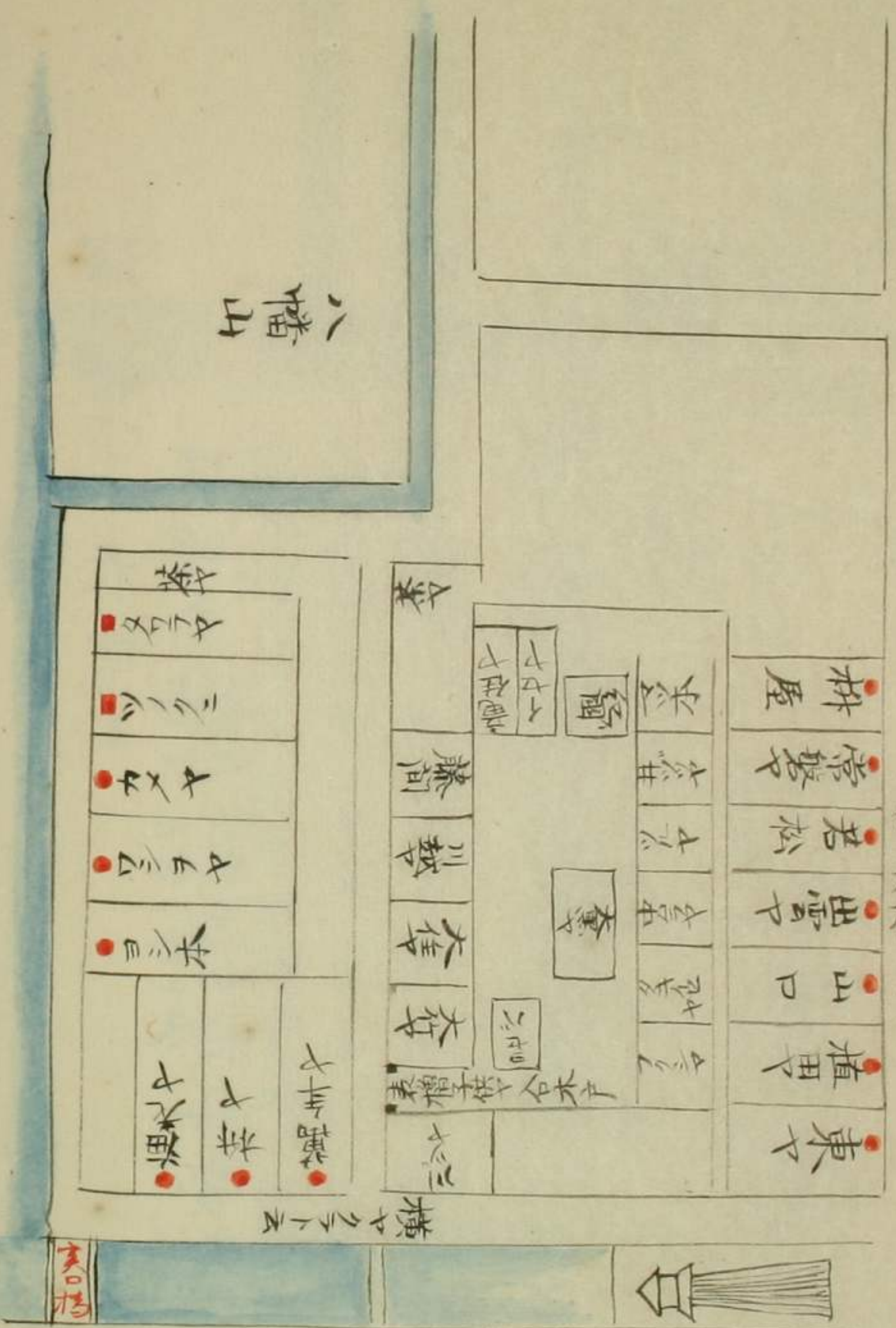
四六

此印分ナリ

天保十巳亥年 仕方番ニテ
 昼寺 夜云寸

永代寺門前山本町

俗表櫓ト云



深川仲町

呼出

昼夜 五切 銀十二匁
一昼夜 朝真 共銀七十二匁

藝者 男女同之

画上ニ用ル所ノ櫓背反リ死ク一文字ヲ造リ丸ヲ深川ニ限ル形ナリ
是ヲ仕掛ト云又婦人ノ帯ヲ丸ク結ビタルハ画工ノ杜撰成ルベシ皆
結キケニスルナリ故ニ帯ハ一文ニ尺ヲ並トシ少ク肥肉有ハ一丈三
尺余ノ長キ帯ヲ用トゾ尤仲町斗リハ冬月ハ足袋ヲ用猶兩
天ニハ子供屋ヨリ茶屋尾花屋山本ホエ行ニ合羽ヲ用ユレ共
其上ニ腰帶ヲ結バズ暑寒ニ只羽織タルマニテ襟ヲ取り
今ハ廻シカト呼フ下男サシ掛ケ歩ムナリ
九二時ヲ下切都而迎ヲ掛ルハ何方モ同シナカラ他ハ夜四ツ朝迄
ヲ一切ニテ是ヲ四ツ明ケト云仲丁ハカリニテ夜ハツモ迎ヒテ掛テ迎
ト云夜九ツ朝迄ヲ明朝迄ヲ下切ト都而是ヲ九明ト云又賣子供
ト呼ヒ男藝者ヲ大夫呼ビハ緒所同シ共女藝者ハ羽織ト呼ビテ
坐ハ片ハ賣女ト同ク客ヲモ取ルハ是又仲丁ニ限ル迄コロハ新地
ノ三三樓總テ此所ノ風ヲマナビテ去ルアレト他ニテハ藝者
客ヲ取ルハキビシク禁ズルナリ表櫓ニハ客ヲ取ル藝者モ
稀ニハ有ルナリ

かんさー新報等工凡をあらうー伊達とやう表とまう他あり
客者評判誌 上上者おちつてふうい おちつて 深川

新報 サア訪まよしくいれよまよいお娘やーをををどとまを命ため
あんよつをあらとりつてもあらうまじまういふよ **新報** だんまを

ご中よい年仕まうあらもをまよまよまよいどまけて出らうとあふ
新報 まいあ年いんのもうふ人ふえんかいうぬが何れをまつー

ごまつてけらうと **新報** 又けんまらうとまよやまうげいひあーをとおま
を成は度げいーやとありご原機機改店者とお稿の上あてま人の取

のちよいーらまごまう二やー仲所のまうーまよまよとまあまのやま梅平
まらあれおのまいおまをまらうまらまの数をあーまらうまらうとハ

まらうられたものごま月いらまやのまよあ七をまきまらうのふ今ま
ちとまらうのまらう大張紙張まらう一版せまらうまらうの年
をぬいもまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらう
一方の子作やとあらんといらま不せまらうまらうまらうまらう

は書いえ社談洲橋馬翁著述まらう一版出ありお永年号のまらう
性不為仲所一封の範里冊まらう甲乙も形くお島の高の地ありし
おらういぬく一書之文化のまらうはまらうあし文政まらうい
奴様おらうおらうおらうおらうおらうおらうおらうおらうおらう
遊里まらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらう
浪りしおまらうおらうおらうおらうおらうおらうおらうおらう
仲所個新地まらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらう

深川雜事

見多。呼而。伏玉。想花。二階。附。仕。送り。用。身。日。太。娘。仕。伏。羽。太。娘。仕。伏。伏。火。和。女。風。彩。子。つ。少。四。九。少。容。具。附。引。か。子。信。中。佛。全。子。八。幅。隆。深。川。山。軍。仲。所。一。殿。指。今。名。物。於。右。目。録。と。載。せ。る。遊。室。大。全。詳。記。也。

お多火

深川以程花所深川忠徳と云所八幡宮、後有
有二三里俗此所ヲ山旅所ト云ナリ
伏玉 一層紙 胡也右分三朱 女藝者 二朱迎

常盤所

深川之橋
伏玉 一層紙 朝連之各三朱 女藝者 二朱迎
伏玉 四六 杆尾 吉元尾 戸田尾
坪尾 山本 三川尾

尚不知其新也今の観物之有寛政年伴今の地移三此也急り
極多昌也其之文改年皆燒失の故也松坂也山も也若按也當松

お好種有りしは治平の城がて後ハ終て荒れを命戸田屋三郎のしりし
 新奉紫廬子と云意取切白柳子一ト切古申下世浄土三矢倉と云似
 髪衣表何お出し規いお女客せり人そ位あ

江戸の所いは舟一多しとてつ回船也人かえり客者大を

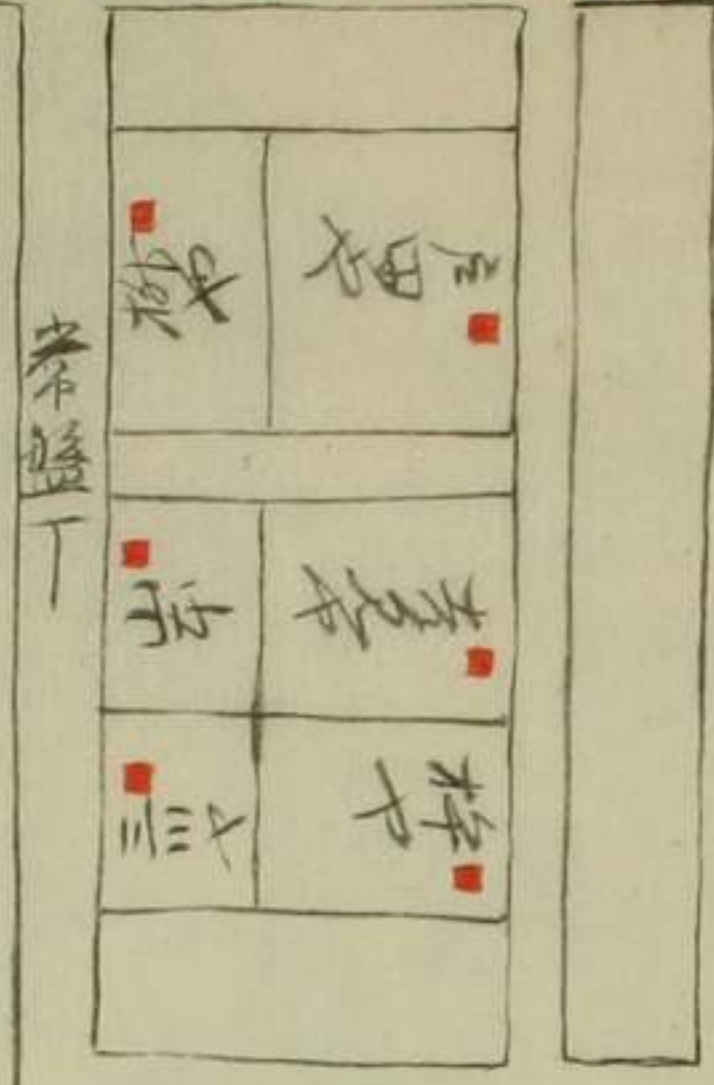
お多び

お茶屋玉梅と大繁昌の杜里客者洋判池上上者おたび

徳田御おんますすまのし仔達せかざる物ありめん 願は度傾城多き
 の五人宿付しあり変りんよまの先へ買物さるをこまろ年申の是物と出たり
 甚及此世もまをる海雲の形節せまらるの物持取更湯と吞んとす此の
 火神清らるしとらんごへつしあかんお内と何とめ

お多

本町三二橋通

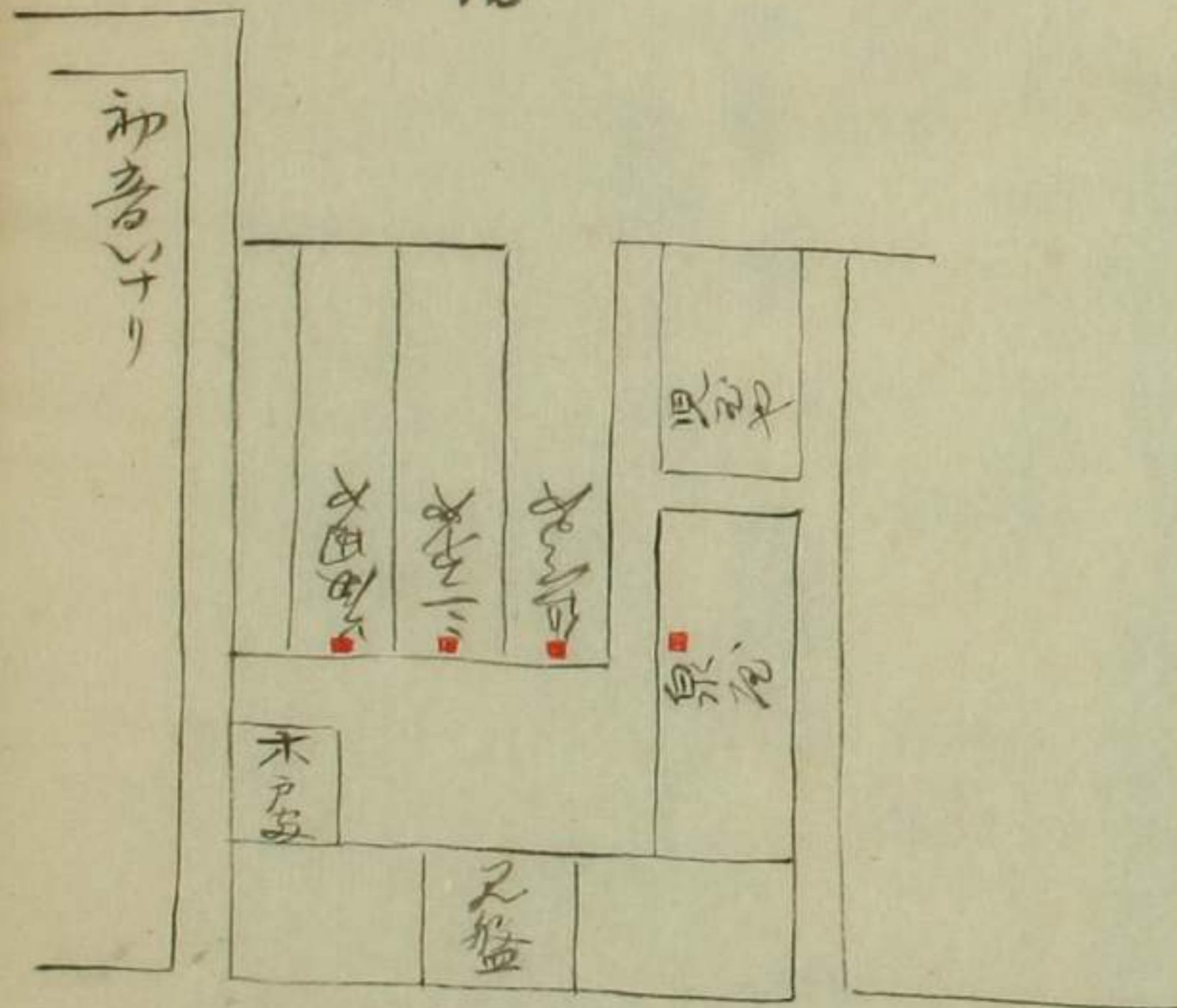


涼川八樓文印旅所有人
 依りあるびと略述を

新船蔵通

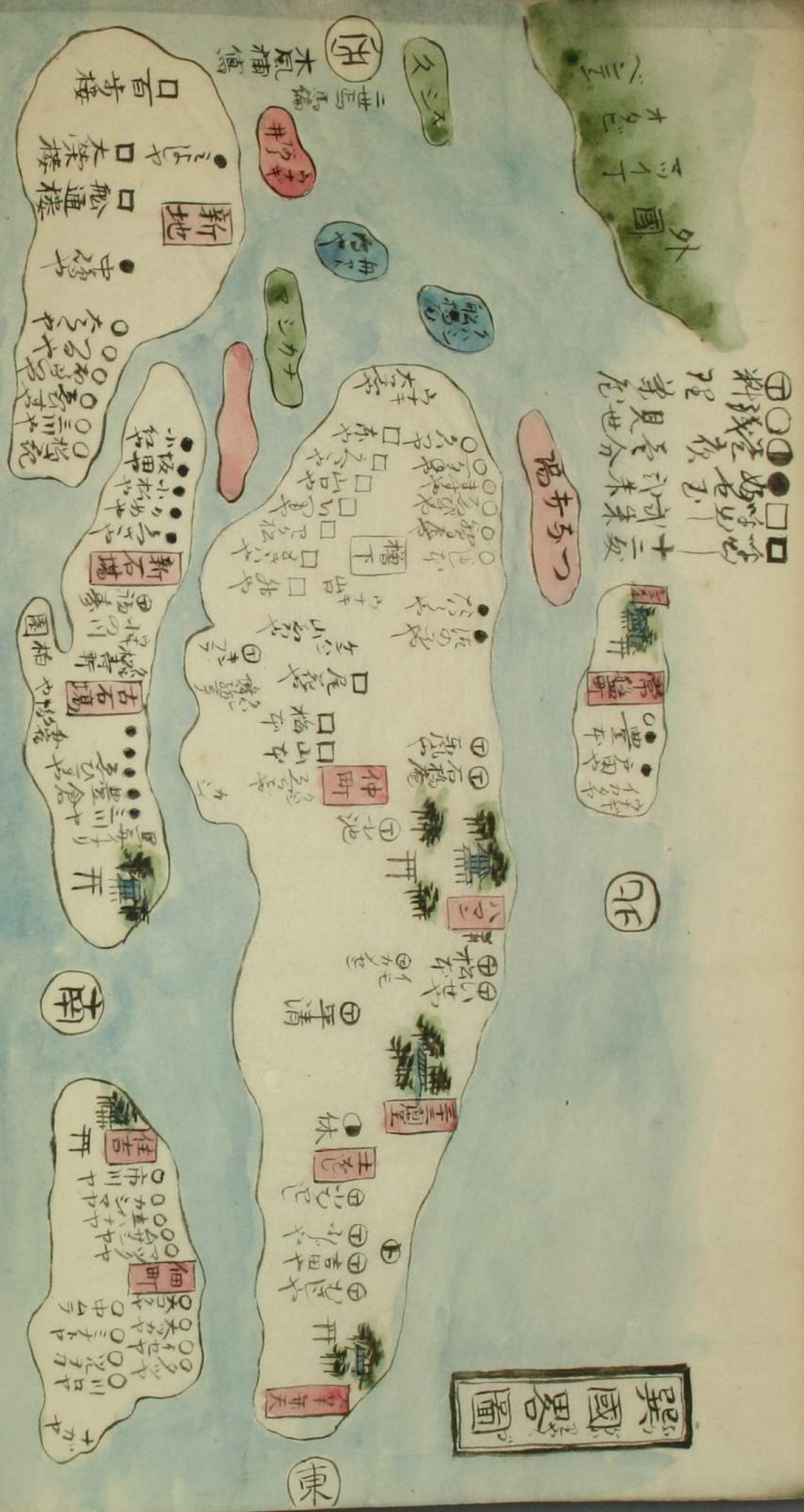
家存所盤云

常盤町 二月二月之月之橋際
 三丁目 本町 橋下一丁目 橋下
 寛政二戌年四月引移り



新船蔵通

吳國畧圖



深川網市場

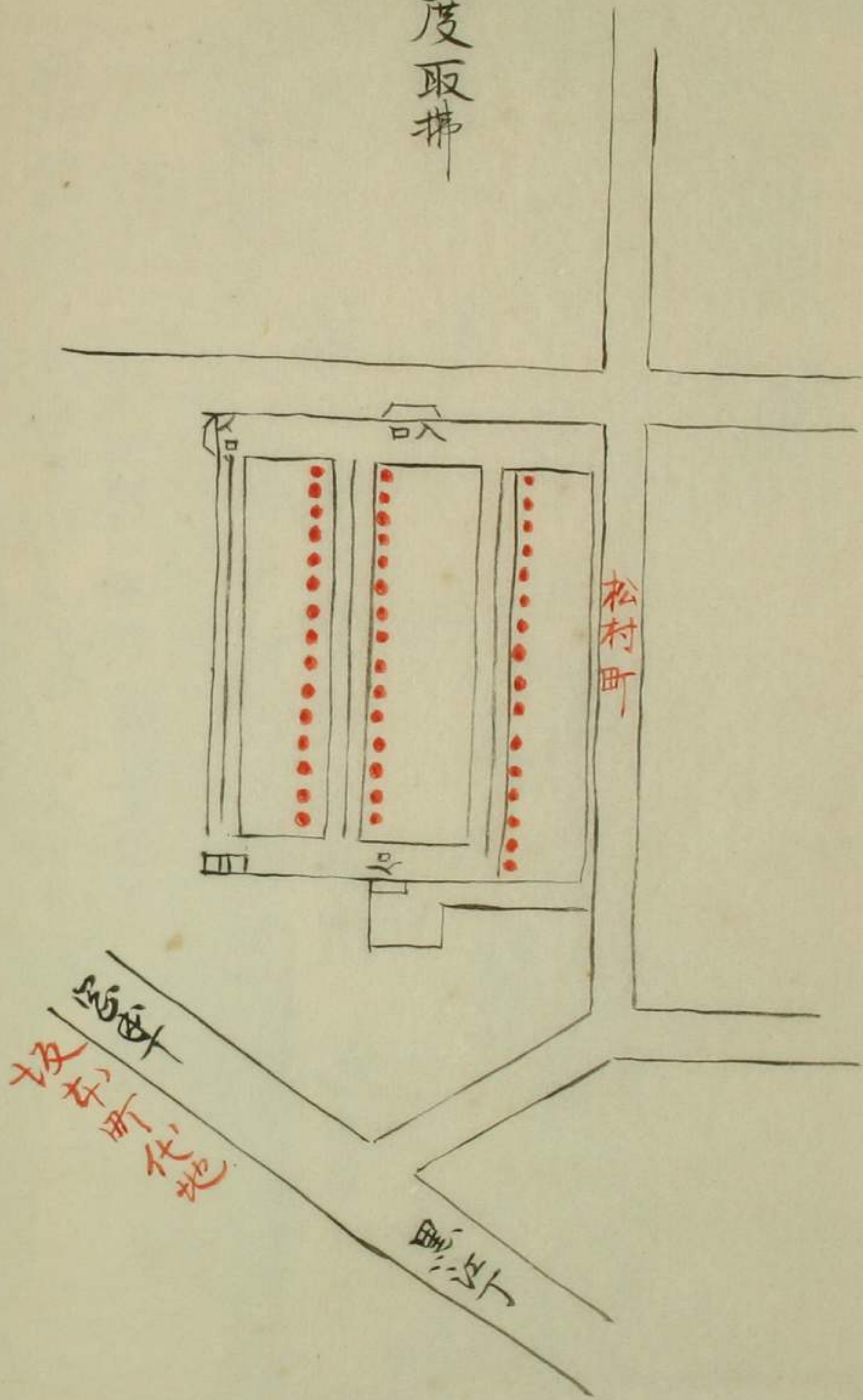
乃見世 竈 玉
路次四限り而九ッ頃近入ルナリ

松村所トシ上村郷寺橋トリッハ新築其ノ良
おろし 郷と納り久地而孫原 郷ありトキ

免里々公おろし其ノ云
あそびのあそびの縁とろしあそび入所
とろしあそび



天保度取拂



アヒル

船頭移下云

涼川佃町ヲ里俗ニアヒルト云ナラン又海云向土橋惣伏可云後仕方替昼夜を替文相斗り金朱

當面ハ佃漁洋領の地ナリ新佃町ト云裏ハ海原屋海ト云佃島ハ佃を洗濯する所ナリ故ニ〜母佃工場橋ト云アヒルハ佃下ノ〜字也畧〜如別云々

同局又也

電三十二

百口

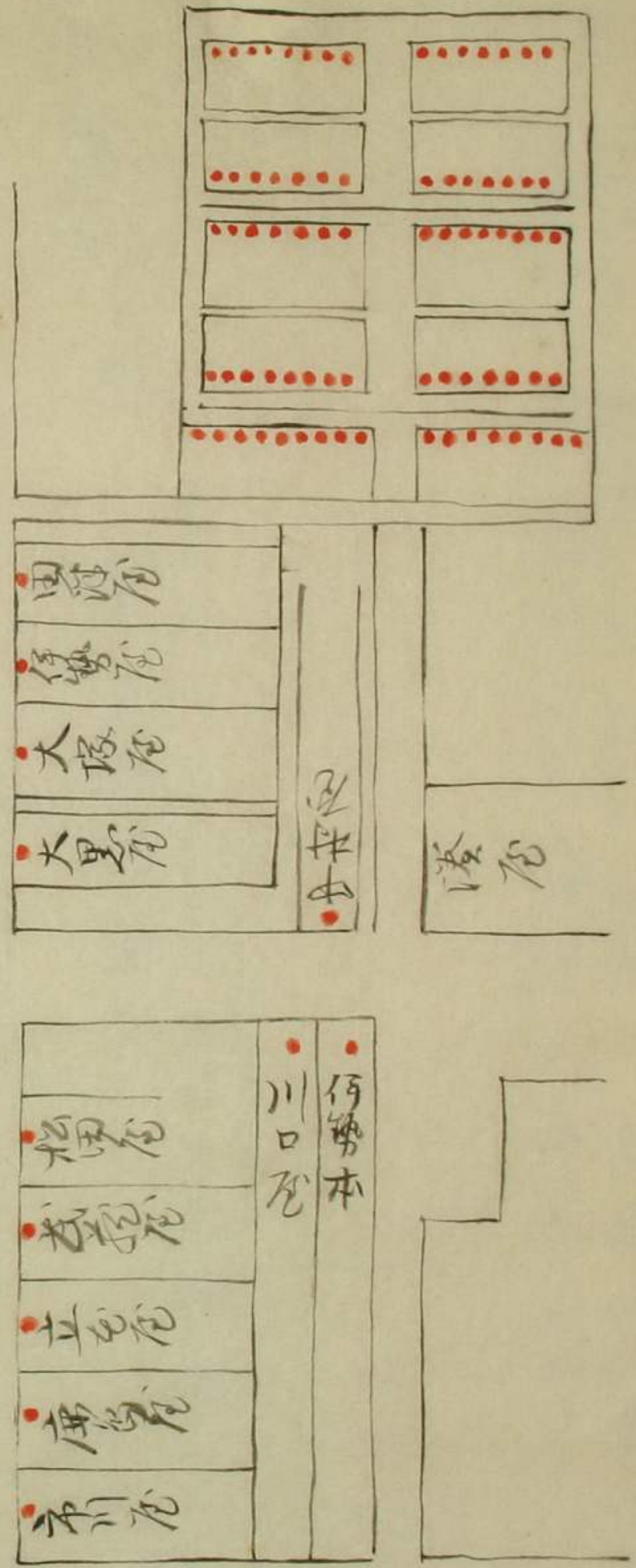
至テ場新ヨロシカラズ女帝風俗然テ橋ニヒトシ

江戸圖解集覽云住吉大明神表子局長尾何リト云〜社似有ハ海〜乳浸迄井候ハ名(田)〜ありし也

みふ人のうられぬ〜

江戸名所いろは夜初や〜作若北八酒本等

天保度元辨



里俗
土橋
東仲町

新橋
永代寺門前

弁天

本町八市多何屋敷本町屋敷後水氏拜地也

午出之益敷
一昼夜朝直者一五分
藝者元

東屋川一橋南濱有本屋江の島弁天女を写す云云年中松屋校

勸誘やう天女の門前女也世後亦天下云何故の時勢松屋橋也

後世の佳人布る天女の形を写す云云松屋橋也

素少やうこし
左平産と云云松屋橋也

院東渡了月屋切と云云松屋橋也

松井町 何玉
一昼夜朝直者一五分
女藝者ニ来迎

其他ありたり松屋橋と云云松屋橋の安風信とも同如也院方女子例有

全指銀橋を以て世に名稱とあり今此地より移りしと老人の語あり

色里名所

石灘席上而色和酒肴一角之應光

色里二十之新の 二十二家

布衣山松井寺 本寺は泉流の強陀如來 汗詠あり

この寺は色里の松井所地獄と云ふなり 山神庵を以て

